2018年度サポートシステムあゆみ　事業報告

施設長　　戸田拓郎

職員体制として、今年度より新たに各事業に主任職を設けた。また、サポート事業のパート職員1名が常勤で生活介護との兼務となった。年度途中にはサポート事業で常勤職員1名・パート職員2名を採用した。年度末には生活介護事業のパート職員2名が事情により退職となった。

◎生活介護（ふきのとう班）

　　昨年度から引き続き、12名＋1名（オープンスペース‘AYUMI’より体験として）がふきのとう班で活動したが、内1名が2月末より入所施設に入られ、生活介護の利用はなくなった。

9月には1泊2日の「たびりゃんせ」を2回に分けて行い、参加者以外は休みとなった事と、台風21号接近に伴い1日休業した為、利用数が少なくなった。また、1月末から2月末まで、利用者1名が入院していた為、その間の利用数は少なくなっている。

◎放課後等デイサービス

　前年度後半から今年度夏頃まで利用数は増えていた。前年度末の職員退職により人員的な余裕のない状況になった為、今年度は利用者の新規契約を当面見送っていた事や、利用者の家庭の事情により利用頻度の少なくなった利用者が数名いた事もあり、後半は各月の利用数が前年度を下回る事が続いた。11月に常勤職員1名を採用して以降、5名と新規利用契約をした。年度合計では前年度を上回る利用数となった。年度末をもって6名が卒業に伴い利用終了となった。

◎居宅介護・重度訪問介護・行動援護・同行援護

居宅介護は昨年度末より1名、週2回の固定利用が増えた事もあり、年間の総利用時間数が前年度より少し増加した。

重度訪問介護は今年度も対象者がいなかった。

行動援護は5月からこれまで行ってきた土曜日の外出プログラムを終了した事に伴い、利用時間数は2～3割程度減少した。別途の新たな利用もある為、利用回数の減少は1割程度だが、1回あたりの利用時間数はプログラム程長くはないケースが多い為、時間数の減少が大きかった。

同行援護では2名の利用者の外出を継続しており、年度後半には利用頻度が高くなってきている。

◎地域生活支援事業（移動支援・日中一時支援）

　　移動支援は、行動援護同様にプログラム終了に伴い利用が減った事や年度途中に行動援護に切り替わった利用者も数名いた事もあり、大幅に回数・時間数共に減少した。

日中一時支援は、成人の日中プログラム「ちょこっとステイ」への参加時に、固定的な利用があった。今年度もクリスマス会を行い、日中一時支援を利用して9名の参加があった。

◎インフォーマルサービス

　「ちょこっとステイ」（日中一時支援以外）やレスパイトサービス、送迎サービスを行った。実費

プログラムの「ケチャケチャ」も継続的に前後期5回ずつ実施し、各期定員の10名の参加があった。